

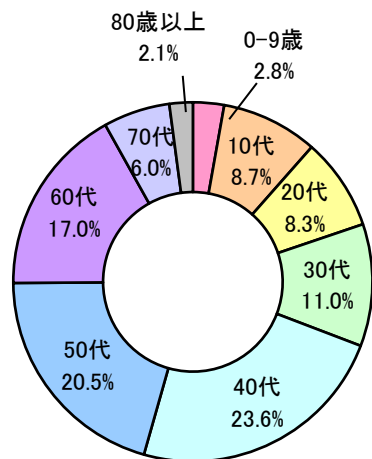
特別展「仁和寺と御室派のみほとけ—天平と真言密教の名宝—」

アンケート集計結果

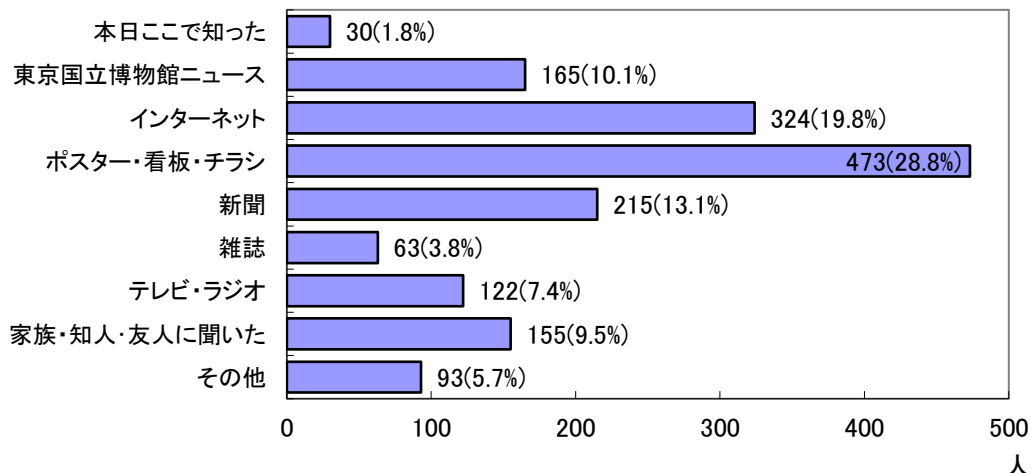
開催期間：平成30年1月16日（火）～平成30年3月11日（日）（48日間）

回答者数：1,017人（総入館者数：324,042人 アンケート回収率：0.31%）

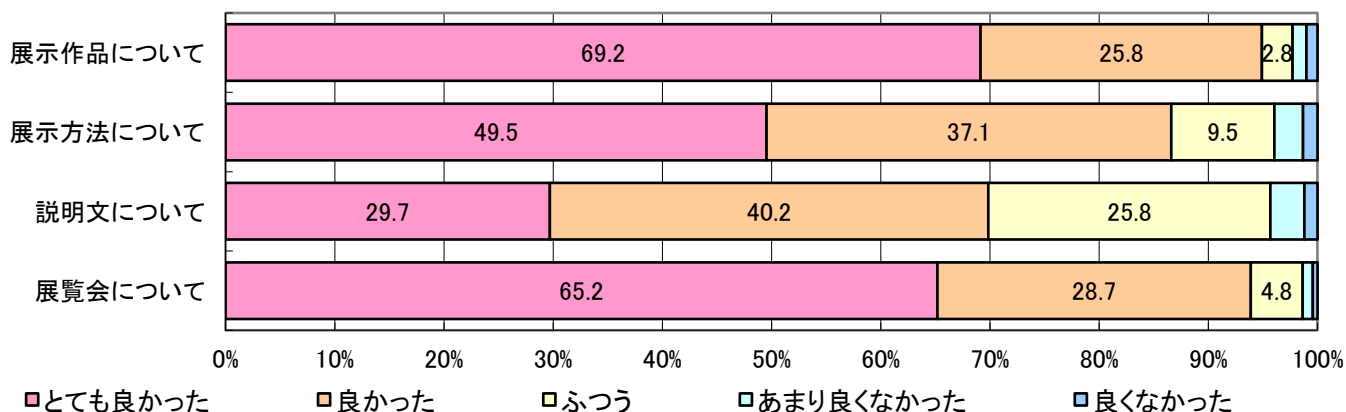
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・ 観音堂の再現が圧巻で、仁和寺をいつか訪ねたいと思った。
- ・ 秘仏と同じ空気を吸っていることが実感でき嬉しかった。
- ・ 天平と真言密教の皇室との深いつながりがよくわかった。
- ・ 光背の影が壁面に映し出されて本当にきれいだった。
- ・ 御室派の知らなかったお寺をたくさん知ることができた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	0.9	0.4
説明文	3.1	1.2
展示方法	2.6	1.3
展示作品	1.3	1.0

(%)

御室桜で知られる仁和寺は、光孝（こうこう）天皇が仁和2年(886)に建立を発願し、次代の宇多天皇が仁和4年(888)に完成させた真言密教の寺院です。歴代天皇の厚い帰依を受けたことから、すぐれた絵画、書跡、彫刻、工芸品が伝わります。創建時の本尊である阿弥陀如来像(国宝)は、当時もっともすぐれた工房の作品です。また、高倉天皇宸翰消息(国宝)は皇室との深いかわりを物語るものです。

仁和寺の寺宝のほか、仁和寺を総本山とする御室派寺院が所蔵する名宝の数々を一堂に紹介した本展には32万人を超える方々にご覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して97.8%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。その一方で「観音堂の撮影可能コーナーでシャッター音が気になって観覧に集中できなかった」、「宸翰が達筆すぎて書き下し文が無く何が書かれておるのか分からなかった」などのご意見も寄せられました。

今後来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。